

学校質問調査結果(小学校)

Q1-1

調査対象学年の児童に対して、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行いましたか。

No.	選択肢	人数	割合
1	よく行った	326	71.8%
2	どちらかといえば行った	125	27.5%
3	あまり行わなかった	3	0.7%
4	全く行わなかった	0	0.0%

Q1-3

調査対象学年の児童は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしながら、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか。

No.	選択肢	人数	割合
1	そう思う	173	38.1%
2	どちらかといえばそう思う	251	55.3%
3	どちらかといえばそう思わない	29	6.4%
4	そう思わない	1	0.2%

Q1-5

調査対象学年の児童に対して、授業において、児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか。

No.	選択肢	人数	割合
1	よく行った	217	47.8%
2	どちらかといえば行った	235	51.8%
3	あまり行わなかった	2	0.4%
4	全く行わなかった	0	0.0%

Q1-7

調査対象学年の児童に対して、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか。

No.	選択肢	人数	割合
1	よく行った	178	39.2%
2	どちらかといえば行った	248	54.6%
3	あまり行わなかった	28	6.2%
4	全く行わなかった	0	0.0%

Q1-9

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると思いますか。

No.	選択肢	人数	割合
1	そう思う	105	23.1%
2	どちらかといえばそう思う	294	64.8%
3	どちらかといえばそう思わない	54	11.9%
4	そう思わない	1	0.2%

Q1-11

調査対象学年の児童に対して、家庭学習について、児童が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか。

No.	選択肢	人数	割合
1	よく行った	135	29.7%
2	どちらかといえば行った	274	60.4%
3	あまり行わなかった	45	9.9%
4	全く行わなかった	0	0.0%

Q1-2

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組みことができていると思いますか。

No.	選択肢	人数	割合
1	そう思う	122	26.9%
2	どちらかといえばそう思う	281	61.9%
3	どちらかといえばそう思わない	51	11.2%
4	そう思わない	0	0.0%

Q1-4

調査対象学年の児童に対して、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか。

No.	選択肢	人数	割合
1	よく行った	175	38.5%
2	どちらかといえば行った	267	58.8%
3	あまり行わなかった	12	2.6%
4	全く行わなかった	0	0.0%

Q1-6

調査対象学年の児童に対して、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか。

No.	選択肢	人数	割合
1	よく行った	205	45.2%
2	どちらかといえば行った	238	52.4%
3	あまり行わなかった	11	2.4%
4	全く行わなかった	0	0.0%

Q1-8

調査対象学年の児童に対して、学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか。

No.	選択肢	人数	割合
1	よく行った	196	43.2%
2	どちらかといえば行った	240	52.9%
3	あまり行わなかった	18	4.0%
4	全く行わなかった	0	0.0%

Q1-10

調査対象学年の児童は、授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思いますか。

No.	選択肢	人数	割合
1	そう思う	89	19.6%
2	どちらかといえばそう思う	255	56.2%
3	どちらかといえばそう思わない	107	23.6%
4	そう思わない	3	0.7%

Q1-12

教員同士で互いの授業を自由に参観し、授業改善に向けた意見交換を行っていますか。

No.	選択肢	人数	割合
1	よく行った(全職員が、計画的に)	200	44.1%
2	どちらかといえば行った(半数以上の職員が、計画的に)	191	42.1%
3	あまり行わなかった(一部の職員のみ、計画的に)	63	13.9%
4	全く行わなかった(計画なし)	0	0.0%

Q1-13

本調査をCBTで実施することにより、児童の情報活用能力の育成に資すると思いませんか。

No.	選択肢	人数	割合
1	そう思う	160	35.2%
2	どちらかといえばそう思う	251	55.3%
3	どちらかといえばそう思わない	41	9.0%
4	そう思わない	2	0.4%

Q2-1

MEXCBT(メクビット)の活用状況について、定期的に活用したものを選んでください(複数回答可)。

No.	選択肢	人数	割合
1	授業の導入場面で、身に付けさせたい資質・能力を育成するために活用した	78	17.2%
2	授業の終末場面で、資質・能力が身に付いているかを確認するために活用した	201	44.3%
3	定着が十分でない学習内容について定着を図るための補充問題として活用した	353	77.8%
4	家庭学習で、自主的な学習の教材として活用した	146	32.2%
5	実力試験や定期試験で、評価問題として活用した	20	4.4%
6	その他(自由記述)	39	8.6%

その他(自由記述の一部)

- ・夏休みや冬休みの課題として活用した。
- ・家庭学習の課題として活用した。
- ・eboard 学びポケット NHK for school 等を活用した。
- ・ScTN質問紙を活用した。
- ・強度の弱視で見えて活用することが難しかった。拡大教材や、見えやすいスライド資料や動画を活用した。

Q3-1

令和6年度鹿児島学力・学習状況調査の活用について、当てはまるものを選んでください(複数回答可)。

No.	選択肢	人数	割合
1	出題の趣旨や傾向を全職員で確認する機会をもった	395	87.0%
2	出題の趣旨や傾向を教科部や学年部等で確認する機会をもった	214	47.1%
3	自校児童の誤答傾向など課題把握を行った	411	90.5%
4	誤答が多かった問題などについて補充指導を行う機会をもった	385	84.8%
5	児童の自主的な学習として、類似問題に取り組む機会をもった	241	53.1%
6	その他(自由記述)	4	0.9%

その他(自由記述の一部)

- ・対象児童がいなかったため出題の傾向のみを確認した。

Q1-14

本調査をCBTで実施することにより、教職員の業務改善に資すると思いませんか。

No.	選択肢	人数	割合
1	そう思う	244	53.7%
2	どちらかといえばそう思う	181	39.9%
3	どちらかといえばそう思わない	27	5.9%
4	そう思わない	2	0.4%

Q2-2

デジタル教材やアプリの活用状況について、定期的に活用したものを選んでください(複数回答可)。

No.	選択肢	人数	割合
1	授業の導入場面で、身に付けさせたい資質・能力を育成するために活用した	265	58.4%
2	授業の終末場面で、資質・能力が身に付いているかを確認するために活用した	375	82.6%
3	定着が十分でない学習内容について定着を図るための補充問題として活用した	407	89.6%
4	家庭学習で、自主的な学習の教材として活用した	259	57.0%
5	実力試験や定期試験で、評価問題として活用した	20	4.4%
6	その他(自由記述)	4	0.9%

その他(自由記述の一部)

- ・夏休みや冬休みの課題として活用した。
- ・家庭学習の課題として活用した。
- ・朝の活動(ドリルタイム)で活用した。
- ・児童が協働的な学びを行うために活用した。

Q4-1

学力向上に対する取組について、当てはまるものを選んでください(複数回答可)。

No.	選択肢	人数	割合
1	全国学力・学習状況調査や鹿児島学力・学習状況調査の結果分析を行い、自校の課題と解決策について共通理解を図った	445	98.0%
2	調査結果を踏まえ、組織的に授業改善に取り組んだ	396	87.2%
3	全国学力・学習状況調査や鹿児島学力・学習状況調査の結果から学校の課題を明確にし、教育課程の改善を図った	318	70.0%
4	全国学力・学習状況調査や鹿児島学力・学習状況調査の報告書を活用して、職員研修を行った	368	81.1%
5	校長、教頭ともに計画的・意図的に授業参観を行い、指導助言を行った	383	84.4%
6	その他(自由記述)	6	1.3%

その他(自由記述の一部)

- ・全体研修で相互授業参観を計画し、個人の課題解決を図れるようにした。
- ・教育説明会、学校運営協議会等で誤答傾向、授業改善、家庭学習の仕方について話題にしている。
- ・全国学習状況調査と鹿児島学力・学習状況調査ともに、対象学年がない期間が続いたため、全国及び県の結果や報告書を参考に授業改善を行った。

学校質問調査結果(中学校)

Q1-1

調査対象学年の児童に対して、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行いましたか。

No.	選択肢	人数	割合
1	よく行った	151	70.9%
2	どちらかといえば行った	61	28.6%
3	あまり行わなかった	1	0.5%
4	全く行わなかった	0	0.0%

Q1-3

調査対象学年の児童は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか。

No.	選択肢	人数	割合
1	そう思う	83	39.0%
2	どちらかといえばそう思う	119	55.9%
3	どちらかといえばそう思わない	11	5.2%
4	そう思わない	0	0.0%

Q1-5

調査対象学年の児童に対して、授業において、児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか。

No.	選択肢	人数	割合
1	よく行った	73	34.3%
2	どちらかといえば行った	133	62.4%
3	あまり行わなかった	7	3.3%
4	全く行わなかった	0	0.0%

Q1-7

調査対象学年の児童に対して、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたか。

No.	選択肢	人数	割合
1	よく行った	68	31.9%
2	どちらかといえば行った	122	57.3%
3	あまり行わなかった	23	10.8%
4	全く行わなかった	0	0.0%

Q1-9

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると思いますか。

No.	選択肢	人数	割合
1	そう思う	56	26.3%
2	どちらかといえばそう思う	139	65.3%
3	どちらかといえばそう思わない	18	8.5%
4	そう思わない	0	0.0%

Q1-11

調査対象学年の児童に対して、家庭学習について、児童が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか。

No.	選択肢	人数	割合
1	よく行った	38	17.8%
2	どちらかといえば行った	128	60.1%
3	あまり行わなかった	47	22.1%
4	全く行わなかった	0	0.0%

Q1-2

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組みことができていると思いますか。

No.	選択肢	人数	割合
1	そう思う	44	20.7%
2	どちらかといえばそう思う	147	69.0%
3	どちらかといえばそう思わない	22	10.3%
4	そう思わない	0	0.0%

Q1-4

調査対象学年の児童に対して、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか。

No.	選択肢	人数	割合
1	よく行った	59	27.7%
2	どちらかといえば行った	149	70.0%
3	あまり行わなかった	5	2.3%
4	全く行わなかった	0	0.0%

Q1-6

調査対象学年の児童に対して、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか。

No.	選択肢	人数	割合
1	よく行った	81	38.0%
2	どちらかといえば行った	125	58.7%
3	あまり行わなかった	7	3.3%
4	全く行わなかった	0	0.0%

Q1-8

調査対象学年の児童に対して、学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか。

No.	選択肢	人数	割合
1	よく行った	59	27.7%
2	どちらかといえば行った	138	64.8%
3	あまり行わなかった	16	7.5%
4	全く行わなかった	0	0.0%

Q1-10

調査対象学年の児童は、授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思いますか。

No.	選択肢	人数	割合
1	そう思う	25	11.7%
2	どちらかといえばそう思う	111	52.1%
3	どちらかといえばそう思わない	75	35.2%
4	そう思わない	2	0.9%

Q1-12

教員同士で互いの授業を自由に参観し、授業改善に向けた意見交換を行っていますか。

No.	選択肢	人数	割合
1	よく行った(全職員が、計画的に)	57	26.8%
2	どちらかといえば行った(半数以上の職員が、計画的に)	91	42.7%
3	あまり行わなかった(一部の職員のみ、計画的に)	62	29.1%
4	全く行わなかった(計画なし)	3	1.4%

Q1-13

本調査をCBTで実施することにより、児童の情報活用能力の育成に資すると思いませんか。

No.	選択肢	人数	割合
1	そう思う	63	29.6%
2	どちらかといえばそう思う	125	58.7%
3	どちらかといえばそう思わない	23	10.8%
4	そう思わない	2	0.9%

Q2-1

MEXCBT(メクビット)の活用状況について、定期的に活用したものを選んでください(複数回答可)。

No.	選択肢	人数	割合
1	授業の導入場面で、身に付けさせたい資質・能力を育成するために活用した	43	20.2%
2	授業の終末場面で、資質・能力が身に付いているかを確認するために活用した	77	36.2%
3	定着が十分でない学習内容について定着を図るための補充問題として活用した	144	67.6%
4	家庭学習で、自主的な学習の教材として活用した	87	40.8%
5	実力試験や定期試験で、評価問題として活用した	33	15.5%
6	その他(自由記述)	26	12.2%

その他(自由記述の一部)

- ・入試対策の練習として活用した。
- ・全国学力・学習状況調査や鹿児島県児童生徒体力・運動能力調査で活用した。
- ・eライブラリーを使用し家庭学習や補充学習を行っている。
- 休みや冬休みの課題として活用した。
- ・市の教育委員会からの配信問題に取り組みませた。
- ・全校生徒、朝学習の時間に活用した。
- ・自習課題として活用した。
- ・長期休業中の課題の一つとして提示した。
- ・鹿児島県の学力向上に関する重点問題のCBT問題の配信と内容結果を活用した。
- ・キュビナを活用した。

Q3-1

令和6年度鹿児島学力・学習状況調査の活用について、当てはまるものを選んでください(複数回答可)。

No.	選択肢	人数	割合
1	出題の趣旨や傾向を全職員で確認する機会をもった	141	66.2%
2	出題の趣旨や傾向を教科部や学年部等で確認する機会をもった	151	70.9%
3	本校児童の誤答傾向など課題把握を行った	183	85.9%
4	誤答が多かった問題などについて補充指導を行う機会をもった	163	76.5%
5	児童の自主的な学習として、類似問題に取り組む機会をもった	106	49.8%
6	その他(自由記述)	2	0.9%

その他(自由記述の一部)

- ・対象生徒がおらず、調査及び活用することができなかった。
- ・保護者に結果を提示し、本人の実態共有に活用した。

Q1-14

本調査をCBTで実施することにより、教職員の業務改善に資すると思いませんか。

No.	選択肢	人数	割合
1	そう思う	99	46.5%
2	どちらかといえばそう思う	93	43.7%
3	どちらかといえばそう思わない	20	9.4%
4	そう思わない	1	0.5%

Q2-2

デジタル教材やアプリの活用状況について、定期的に活用したものを選んでください(複数回答可)。

No.	選択肢	人数	割合
1	授業の導入場面で、身に付けさせたい資質・能力を育成するために活用した	148	69.5%
2	授業の終末場面で、資質・能力が身に付いているかを確認するために活用した	146	68.5%
3	定着が十分でない学習内容について定着を図るための補充問題として活用した	181	85.0%
4	家庭学習で、自主的な学習の教材として活用した	130	61.0%
5	実力試験や定期試験で、評価問題として活用した	34	16.0%
6	その他(自由記述)	6	2.8%

その他(自由記述の一部)

- ・興味関心を高めたり、理解を深める手立てとして様々な場面で活用した。
- ・朝自習の時間に活用した。
- ・協働的な学びを行うために活用した。
- ・自習課題として活用した。
- ・児童が協働的な学びを行うために活用した。
- ・朝自習で自らデジタル問題集に取り組む生徒も多い。
- ・英語スピーチコンクールの教材として活用した。

Q4-1

学力向上に対する取組について、当てはまるものを選んでください(複数回答可)。

No.	選択肢	人数	割合
1	全国学力・学習状況調査や鹿児島学力・学習状況調査の結果分析を行い、自校の課題と解決策について共通理解を図った	201	94.4%
2	調査結果を踏まえ、組織的に授業改善に取り組んだ	179	84.0%
3	全国学力・学習状況調査や鹿児島学力・学習状況調査の結果から学校の課題を明確にし、教育課程の改善を図った	130	61.0%
4	全国学力・学習状況調査や鹿児島学力・学習状況調査の報告書を活用して、職員研修を行った	159	74.6%
5	校長、教頭ともに計画的・意図的に授業参観を行い、指導助言を行った	170	79.8%
6	その他(自由記述)	6	2.8%

その他(自由記述の一部)

- ・調査対象生徒がおらず、結果分析等を行っていない。
- ・全国学力・学習状況調査や鹿児島学力・学習状況調査の結果分析を行い、個人指導に活用した。
- ・調査結果を踏まえ、教科担任が授業改善に取り組んだ。
- ・全国学力・学習状況調査の生徒質問紙の結果を受けて、改めてタブレットの授業活用について研修を計画している。
- ・職員研修で、結果を個別に分析し、個別指導や家庭学習への内容を検討した。